

雲南市地域新エネルギービジョンの
策定を進めています

地球環境にやさしい新エネルギー導入を推進します



9月28日、第1回雲南市地域新エネルギービジョン策定委員会を木次公民館で開催し、15名の委員を代表して広島工業大学の中山勝矢名誉教授へ速水市長から委嘱状が交付されました。



9月30日、加茂町加茂中地区に整備された新町交差点広場を会場に、秋の全国交通安全運動の一環として「安全な道づくりイベント」が開催されました。
市ではこのイベントにあわせ、市道本町線（本通り）を利用した交通安全実験「どうなる？加茂の本通り!!」を実施



加茂の本通り整備に向け
交通安全実験を実施

この社会実験では、車道幅を3mと4m、線形を直線や蛇行にするなど様々な状況を模倣的に作り出し、児童の通学風景や自動車走行のデモンストレーションを見学しながら、歩行者・運転者それぞれの視点でのアンケート調査を行いました。本町線の整備に向けては、これまで2回のワークショップを開催し、ワークショップでの意見を基に今回の社会実験を実施いたしました。今回のアンケート結果やワークショップでの意見を参考に、道路整備の方針を決定し工事に着手します。



整備された新町交差点での各種イベントも期待されます

新エネルギービジョンは、今年2月に策定された省エネルギービジョン（雲南市の省エネルギーに関する将来構想）とともに石油などの化石燃料に代わる新エネルギーを利用して、地球環境に配慮した方針や計画、目標、取り組みなどを定めるものです。
省エネルギーと新エネルギー両ビジョンを策定し、それに沿った取り組みを展開することで、より一層の環境保全活動につながります。



新エネルギービジョンは来年2月の策定をめざしています。速水市長から中山勝矢委員長へ委嘱状が手渡されました。

今後、策定委員会では、アンケート調査なども踏まえ、市民、企業、行政、それぞれの役割を明確にし、実効力が高く、継続できるビジョンの策定をめざし、議論をすすめていきます。

【雲南市新エネルギービジョン策定委員会委員のみなさん敬称略】

委員長 中山勝矢（広島工業大学名誉教授）

副委員長 伊藤勝久（島根大学教授）

委員 竹下克美（JA雲南）、名原 知（掛合町商工会）、立石幸（飯石森林組合）、半田宏平（島根三洋工業株）、荒木恭司（島根電工株）、岸田俊美（中国電力株）、藤村八郎（教育関係者）、原哲夫・影山喜文（行政関係者）、板持達夫（市議会）、竹田清志、片寄健治、田部 満秋（市民代表）



平和の願いこめて

雲南市戦没者追悼式

9月29日、雲南市加茂文化ホールラメールを会場に、雲南市戦没者追悼式を執り行いました。雲南市となって初めてとなる式には、遺族や関係者など約400人が参列し、黙とうに続き、速水市長や遺族会の代表らが追悼の辞に併せて献花を行い、戦没者の冥福を祈るとともに恒久平和を祈念しました。また、遺族を代表して雲南市遺族会の中西正美会長が「戦没者の遺族も高齢化し、戦争を知らない社会となってきましたが、その体験を風化させることなく語り継ぐことで世界の恒久平和実現に向かっていきたい」と追悼の言葉を述べました。

アンケート集計結果（速報値）

各パターンへの意見（抜粋）

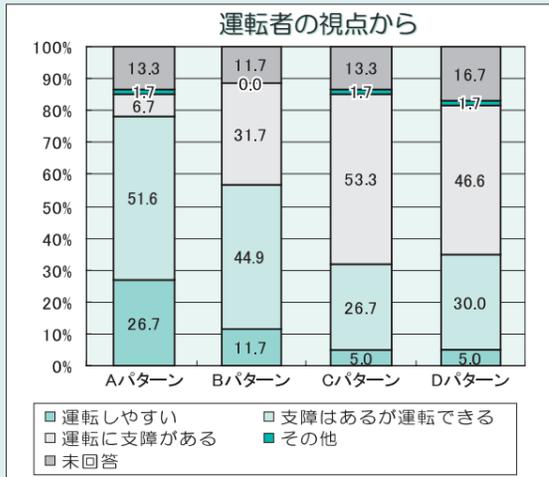
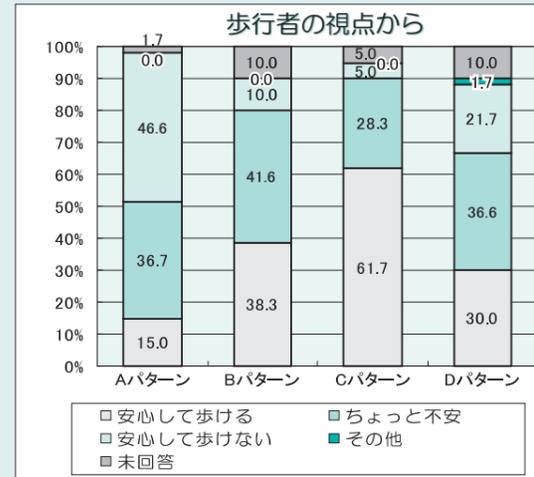
- 【Aパターン】……現状
歩行者が安全に歩けない。普段は路上駐車もあるので、ますます危険。歩行者は車を心配し、車は歩行者に気を取られやすい。…など
- 【Bパターン】……車路4m、直線
車の交差がしづらい。車はどちらか一方通行にすべきと思う。車の交差時に路肩に入っているのなら問題ない。…など
- 【Cパターン】……車路3m、直線
車の徐行を徹底させること。車道の幅が狭く運転しづらい。歩行者は歩道でも必ずしも安全とは言えない。…など

【Dパターン】……車路3m、蛇行

歩行者、運転者とも混乱するのでは。車が減速して走る分、安心な面がある。歩行者は歩道がまっすぐな方が歩きやすい。…など

その他の意見（抜粋）

一方通行にすると不便な人が多いと思う。歩行者としては一方通行が安心だが、生活している者としては一方通行は大変不便である。デザインばかりに注意すると車も人も歩きにくなるのでは。社会実験は、住民と共に考えるいい機会であった。路上駐車がが多いので、その問題も同時に考えなければならぬ。…など



※この集計結果を踏まえたデータ分析と整備方針につきましては、取りまとめが終わり次第お伝えしていきます。